

# みなさんは 交通安全を心がけていますか？



— “過信”や“甘え”が死亡事故・交通事故につながる —

全国で交通事故による死者が急激に増えています。今年に入って成東署管内でも、4件の死亡事故が発生しています。(1月20日現在)これは、昨年の死亡事故の3分の1にあたります。また、交通事故も21件発生しています。

このように、死亡事故・交通事故が急増している背景には、どのような原因があるのでしょうか。また、事故に遭わないためにはどのようなことに注意すればいいのでしょうか。

交通事故の原因を点検しながら、事故防止のポイントを考えてみましょう。

交通事故死者数の特徴は、昨年をみると年齢層別では、16〜24歳の若者と65歳以上の高齢者に多いところです。さらに状態別にみると若者の自動車乗車中と高齢者の歩行中の死者数が多くなっています。

また、交通事故の原因は、上から順にスピードの出しすぎ、車の追越し、信号無視、飲酒運転となつています。

ドライバーと歩行者が

気をつけたい3つの要因

若者の場合は、夜から朝までの間に死亡事故・交通事故が多発—その原因の多くは自分の運転技術を過信していること。また、スピードを出したりして、カッコよく見られたいことだけを考え、自分

を見失っていること。さらに、シートベルトの着用などの交通安全に対する意識が低いことなどが考えられます。

高齢者の事故の原因の多くは、信号無視や無理な道路横断など、高齢者が交通ルールや交通マナーを守っていないことです。「高齢者だから車が止まってくれるだろう」といった高齢者特有の「甘え」があります。

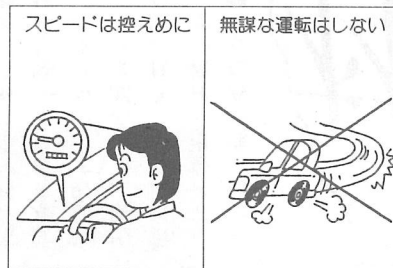
そのうえ、夜間ということ、若者と高齢者のどちらの場合にも次の3つの要因(共通点)が加わります。

- 1、視界や視野が悪くなる
- 2、スピードの感覚が鈍る
- 3、一日の疲れがたまっている

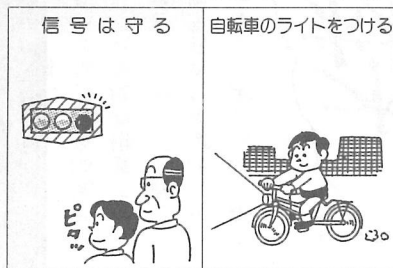
ほかにも、夜間には交通事

故が起こりやすい要因がたくさんあります。昼間よりも気を引き締めて交通安全に心がけましょう。

## ドライバーの注意点



## 歩行者や自転車乗用者の注意点



## 飲酒運転の恐怖 ビール1本でも運転に悪影響

健康な大人は普通、お酒を1合くらい、ビール1本程度で「ほろ酔い」といわれる状態になります。こうなると理性を失うばかりか、運転に必要な能力にも影響が出てきます。

例えば、外の刺激にぼんやりし始めて、目に見えているものにだんだん反応しなくなっていくようです。加えて、その反応にも間違いが多くなっていくようです。

一つのミスも許されない運転が、こんな状態で行われるのは、大変危険です。

まだ、アルコールの入っていない理性があるときに、お酒を飲んだらどうやって帰るのかを決めておき、そのとおりにすることです。そして何より、酒の席には車で出かけるなことです。

